

「防犯ボランティア活動についてのアンケート」結果報告

三重県警察では、防犯ボランティアの参加者の拡大や活動内容の活性化方策を探るため、三重県e-モニター制度を活用して、防犯ボランティア活動に関する意識調査を実施しました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様には、お礼を申し上げますとともに、その結果について、下記のとおり取りまとめましたので報告します。

1 アンケート実施期間

平成27年8月7日（金）～平成27年8月31日（月）

2 アンケート回収状況

- ・ 対象者数 1,215名
- ・ 回答者数 842名
- ・ 回答率 69.3%

3 回答者属性

- ・ 性別
男性 428名、女性 414名
- ・ 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
78名	181名	198名	178名	165名	42名
9.3%	21.5%	23.5%	21.1%	19.6%	5.0%

- ・ 地域別

北勢地域	中南勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
284名	353名	116名	63名	26名
33.7%	41.9%	13.8%	7.5%	3.1%

4 アンケート結果

Q1～Q3は、防犯ボランティア活動への参加経験についての設問です。

「身近で防犯ボランティア活動に参加している方はいますか」という設問に、「いる」と答えた方は20.7%、「いない」と答えた方は79.3%でした。

「あなた自身が防犯ボランティア活動に参加したことはありますか」という設問に、「ある」と答えた方は12.6%、「ない」と答えた方は87.4%でした。

「参加したことがない」と答えた方に、「どのようなきっかけがあれば、防犯ボランティアに参加しますか」と質問したところ、「活動の機会や関連情報を豊富に提供してもらえれば」が最も多く37.4%、以下「仲の良い知人から誘われれば」が36.3%、「参加のハードルが低くなれば」が33.0%、「感謝されているという気持ちが伝わっているならば」が6.4%の順で、「その他」は7.9%、また、「参加したいとは思わない」は15.5%でした。

「その他」には、「時間があれば参加したい」、「協力したい気持ちはあるが、恐怖心もあり踏み出せない」などの意見がありました。

Q4は、どのような方が防犯ボランティア活動を行っているイメージがあるかの設問です。

「自治会、町内会など地元の有志」が最も多く85.3%、以下「PTA、子ども会に加入する保護者」が53.0%、「高齢者」が50.0%、「商店街の店主など」が22.6%、「高校生や大学生などの学生」は2.1%で、「その他」は2.0%でした。

「その他」には、「退職した公務員」、「民生委員」、「青少年育成会」などがありました。

Q5は、防犯ボランティアの活動理念「自分たちの地域は自分たちで守る」についての設問です。

「どちらかと言えば同意できる」が最も多く50.2%、以下「深く同意できる」が38.8%、「どちらとも言えない」が9.4%、「どちらかと言えば同意できない」が1.0%、「全く同意できない」は0.6%でした。

Q6は、防犯ボランティア活動と地域での犯罪発生との因果関係についての設問です。

「少しは関係がある」が最も多く57.2%、以下「大いに関係がある」が30.4%、「どちらとも言えない」が9.5%、「どちらかと言えば関係がない」が1.7%、「全く関係がない」は1.2%でした。

Q7は、防犯ボランティア活動に対する行政の果たすべき役割についての設問です。

必要とする事項で最も多いのが「犯罪の発生状況や防犯情報の提供」で60.3%、以下「活動方法の指導」が58.2%、「活動用物品等の支援」が54.2%、「活動資金の助成」が49.8%、「保険制度を充実させるなど、安心して活動できる環境づくり」が43.0%、「その他」は3.2%でした。

「その他」には、「他団体の活動状況の伝達」、「一般住民への周知」、「行政が主体にならないように」などの意見がありました。

Q8は、企業等が社会に貢献すること（CSR活動）を目的に防犯ボランティア活動を行うことについての設問です。

「よいことだと思う」が最も多く89.1%、以下「わからない」が8.0%、「必要ない」が3.0%でした。

Q9は、防犯ボランティア活動に期待することについての設問です。

期待できる効果として最も多いのが「地域に安心感を与えてくれる」で80.5%、以下「犯罪や交通事故などを減らす」が69.7%、「仲間意識が醸成され、地域の絆が深まる」が34.1%、「地域全体の印象がよくなる」が28.5%で、「その他」は1.7%でした。

「その他」には、「子供たちへの好影響」などの意見がありました。

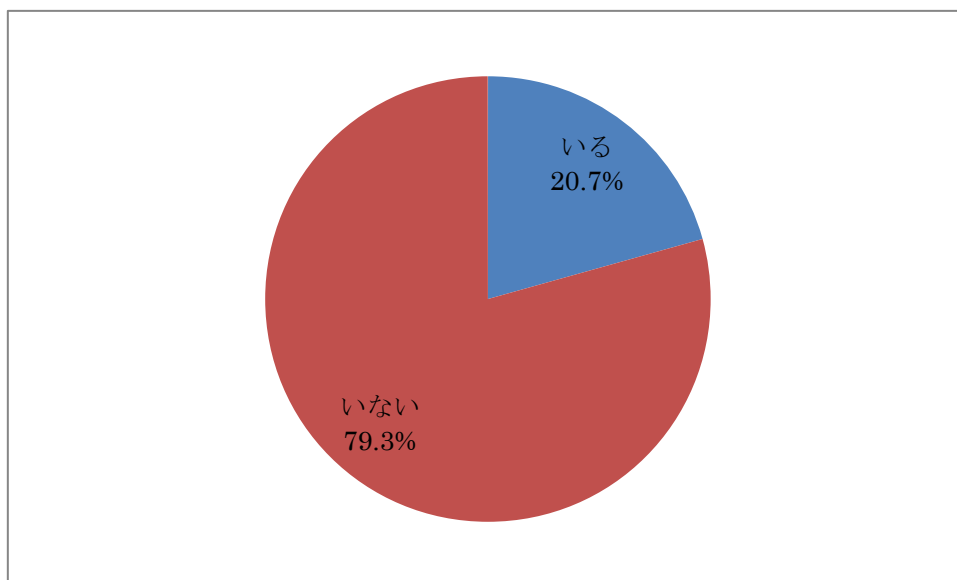
Q10は、防犯ボランティアの団体数、参加者数を増やす方策についての設問です。

「事前に具体的な活動計画を示す」が最も多く58.8%、以下「楽しみややりがいの感じられる活動内容を考える」が58.3%、「金銭的負担がかからないようにする」が51.3%、「活動を強制するのではなく、参加者の裁量に委ねる」が41.4%の順で、「その他」は5.2%でした。

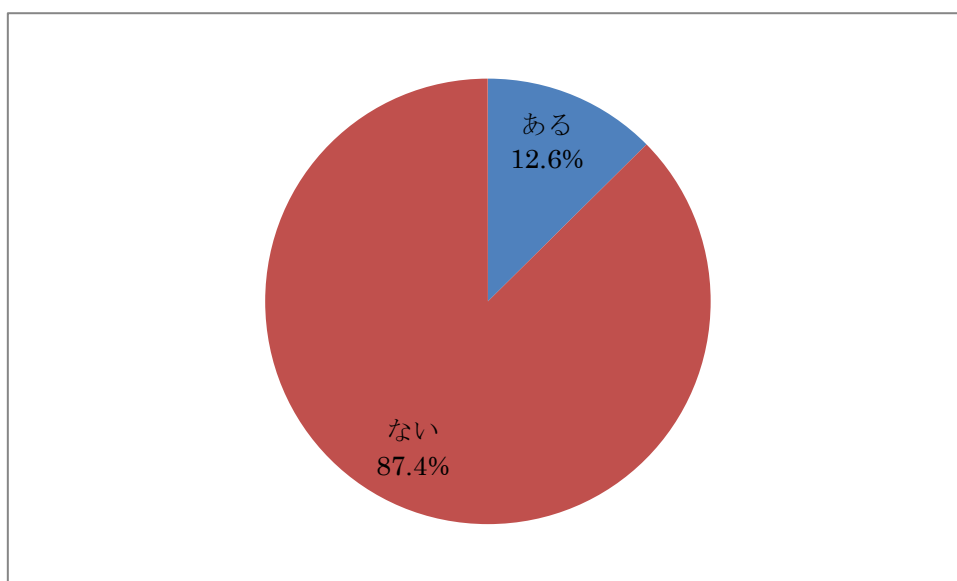
「その他」には、「まずは防犯ボランティアを世間に広める広報」、「誰かがやってくれる感の払拭」、「参加者が固定されず、交代で参加できる体制づくり」などといった意見がありました。

5 参考

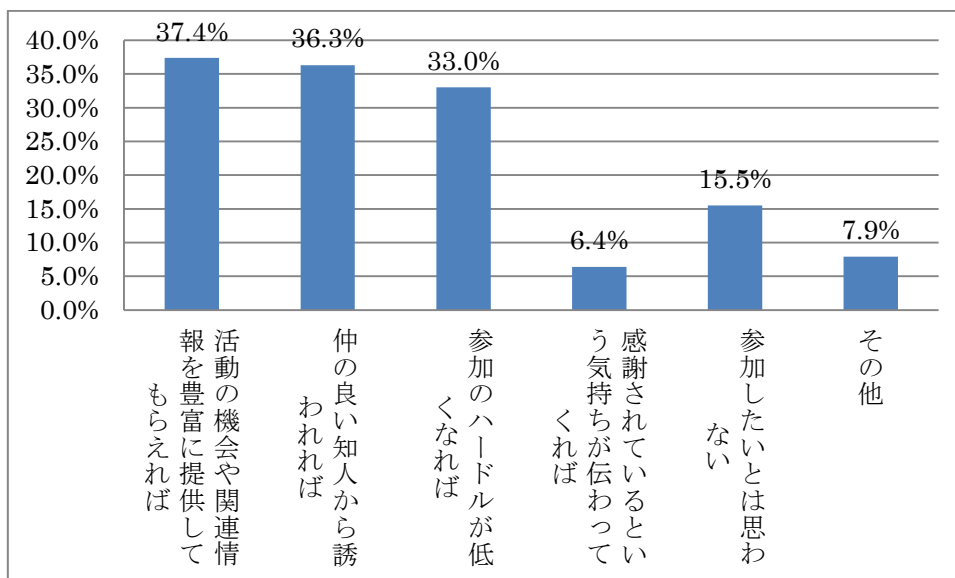
(Q1) 身近で防犯ボランティア活動に参加している人はいますか。



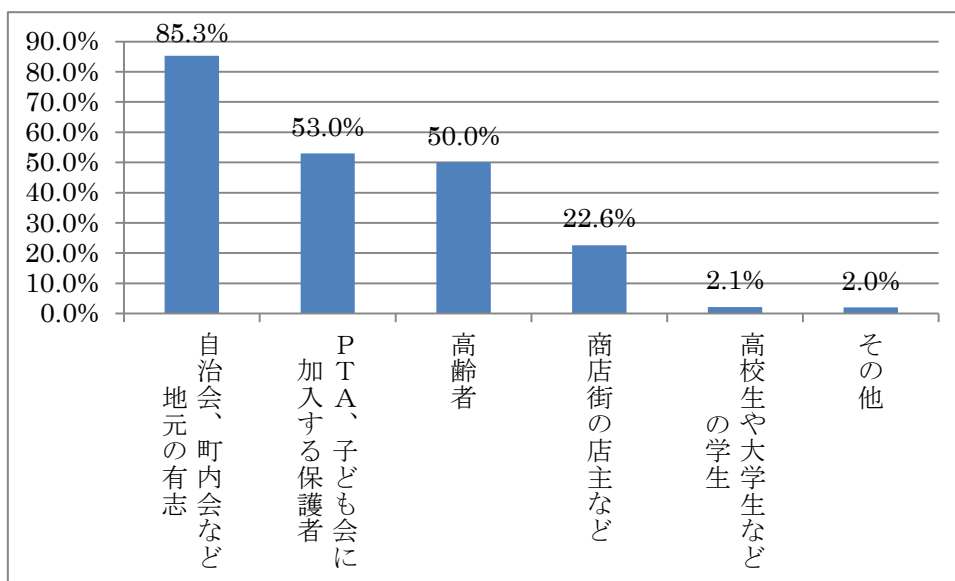
(Q2) 防犯ボランティア活動に参加したことはありますか。



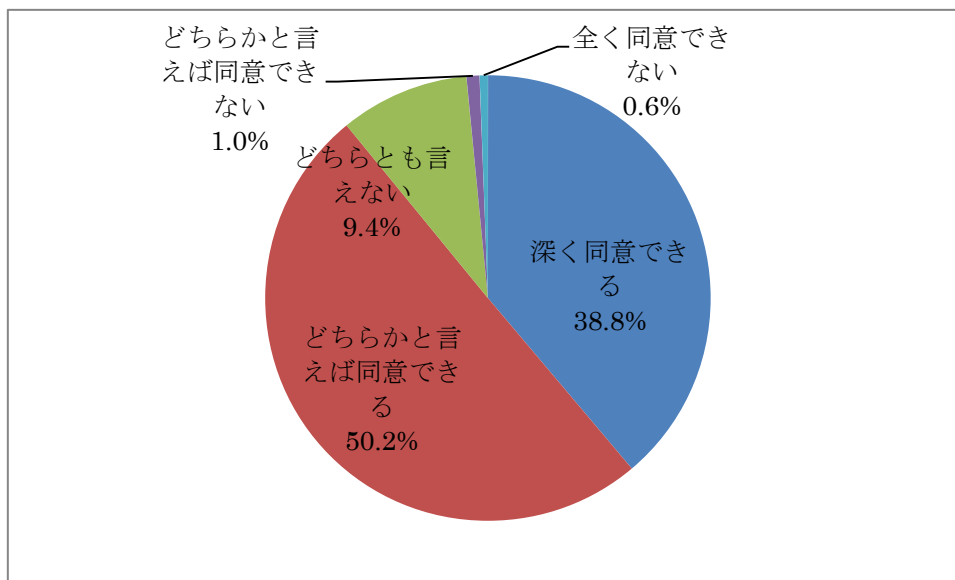
(Q3) Q2で「ない」と回答された方に対して、どのようなきっかけがあれば、防犯ボランティア活動に参加してみようと思いますか。



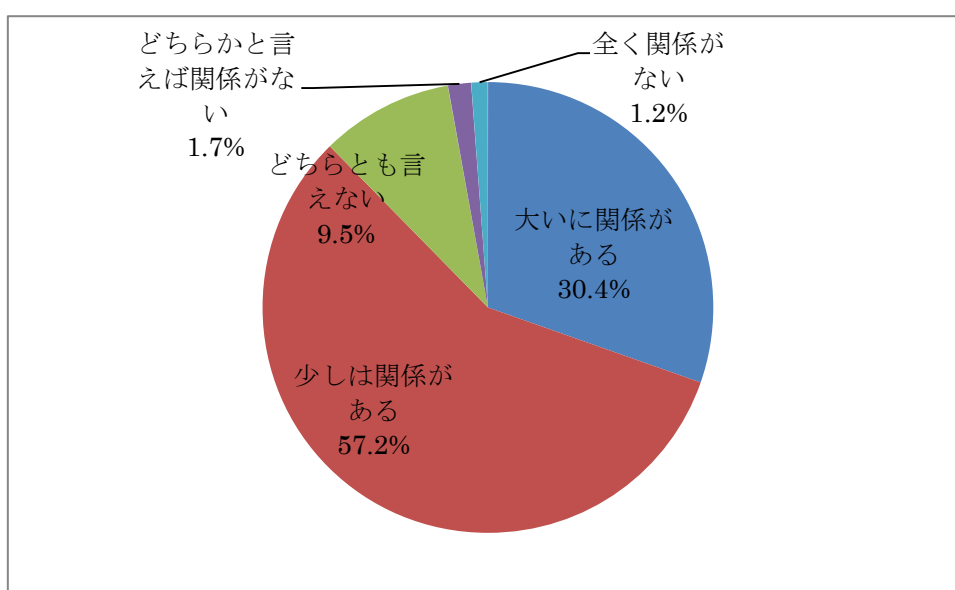
(Q4) 防犯ボランティア活動には、どのような方々が参加しているという印象がありますか。



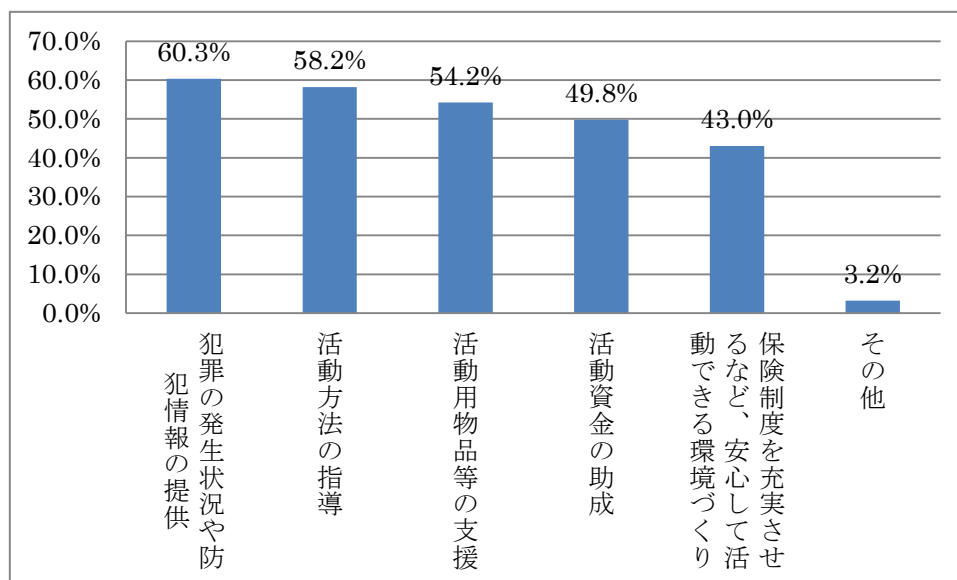
(Q5) 防犯ボランティアの活動理念は、「自分たちの地域は自分たちで守る」というものですが、この考え方についてどう思われますか。



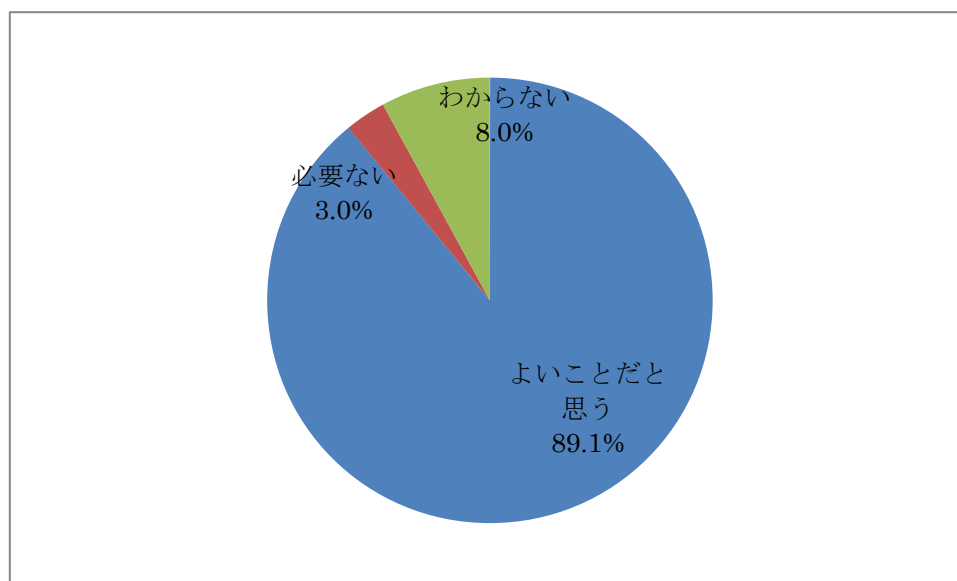
(Q6) 防犯ボランティア活動と地域における犯罪発生件数の増加や減少には因果関係があると思いますか。



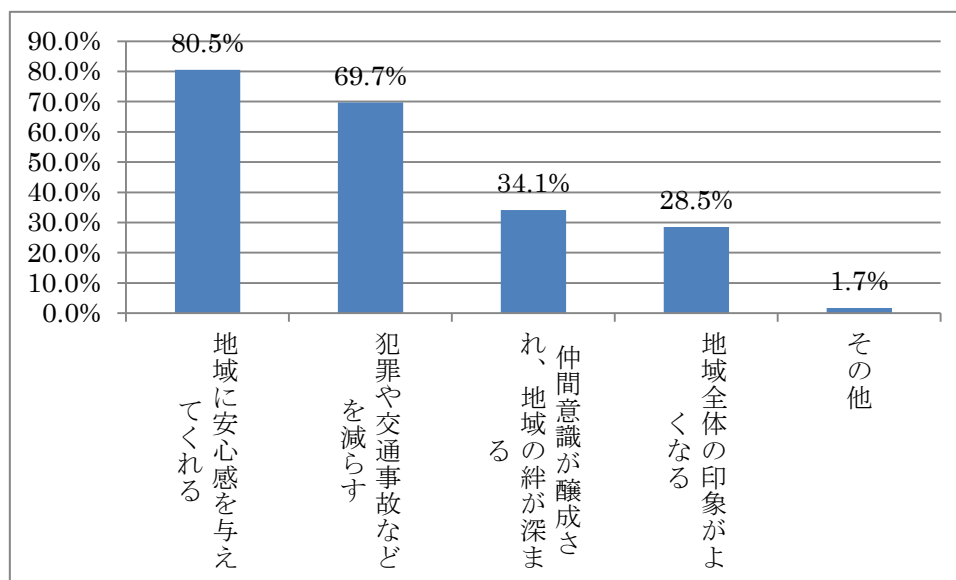
(Q7) 防犯ボランティアに対する行政として果たすべき役割は何だと思えますか。



(Q8) 企業や社会が地域に貢献すること（CSR活動）を目的として防犯ボランティア活動に取り組むことについてどう思えますか。



(Q9) 防犯ボランティアにあなたが期待することは何ですか。



(Q10) 防犯ボランティアの団体数、参加者数を増やすにはどうしたらよいと思いますか。

